

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議経過要旨

会 議 名		令和7年度 木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会		
日 時		令和7年8月21日（木） 10時00分～12時15分	場 所	木津川市役所 第二北別館 会議室
出席者 ■出席者 □欠席者	委 員	【第1号】 ■中澤孝之 委員 ■田中啓之 委員 【第2号】 ■真山達志 委員(会長) ■松畑尚子 委員(副会長) 【第3号】 ■市川浩之 委員 □阪口正吾 委員 □中野龍平 委員 ■藤本寛 委員 ■角野宗久 委員 □松尾有基 委員 □佐脇貞憲 委員 ■西村正子 委員 ■三上かず子委員 ■川崎あき 委員 ■河合智明 委員 ■浦辻克碩 委員 □松本藍 委員 □大倉竹次 委員 □富田幸彦 委員		
	事 務 局	小川政策監 茅早企画戦略部長 西村企画戦略部次長兼学研企画課長 新田学研企画課主幹 楠見学研企画課担当係長		
議 題	1. 開会 2. 挨拶 3. 委員紹介 4. 会長・副会長選出 5. 会長挨拶 6. 議事 ・木津川市デジタル田園都市構想総合戦略令和6年度の取り組みについて 7. その他 8. 閉会			
会 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局から開会を宣言した。 2. 挨拶 副市長より開会の挨拶を行った。 3. 委員紹介 事務局より委員の紹介を行った。 4. 会長・副会長選出 会長に真山達志委員、副会長に松畑尚子委員を選出した。 5. 会長挨拶 会長より挨拶を行った。 6. 議事 資料1「木津川市デジタル田園都市構想総合戦略～令和6年度の取り組み～」に基づき事務局から説明を行った。 7. その他 なし 8. 閉会			

<p>会議経過 要旨</p> <p>◎会長 ○委員 ⇒事務局</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 挨拶 本市では令和5年度末に、「木津川市デジタル田園都市構想総合戦略」を策定し、これまでの「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を発展させ、デジタルの力を活用しながら、地域課題の解消に向けた取組をはじめ、市内外の人々との交流やつながりを広げ、将来にわたり地域に住み続けてもらえる魅力あるまちづくりを推進している。令和6年度は、その初年度として取組をスタートさせており、取組状況についてご意見・ご提案を賜りたい。</p> <p>3. 委員紹介 会議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 会長・副会長選出 会議結果要旨のとおり。</p> <p>5. 会長挨拶 会長より就任の挨拶を行った。</p> <p>6. 議事 木津川市デジタル田園都市構想総合戦略令和6年度の取り組みについて</p> <p>【主な意見・質疑等】</p> <p>○たくさんの事業をやっているが、熱量や市民協働の姿勢が全然伝わってこないと感じる。 恭仁宮跡の取り組みや南加茂台の高齢者移動支援についても、資料だけではその実態が伝わらない。次はどうなるのかという不安がある。評価を次につなげてほしい。</p> <p>⇒市民参画がよく言われているが、市民とのコミュニケーションや情報発信のあり方は、行財政改革推進委員会の外部評価でも指摘いただいている。南加茂台の高齢者移動支援については、地域全体に対してアンケート調査を実施しており、集計分析を進めている。戦略の評価については、今年度評価方法の見直しを進めており、評価結果をどう次の施策や改善につなげていくか試行的に取り組んでいる。今回の資料は総括的なものであり、実態が伝わりにくい部分もあるが、いただいた意見を反映していけるよう取り組みを進めたい。</p>
--	--

○地域おこし協力隊について、去年 10 月の任用から丸 1 年が経ったが、反響がないと感じている。もうちょっと何をしているかが見えないと、地域の人とも親しみを感じられないと感じる。

また、スマホ教室は、移動車での開催ではどこでやっているかが分かりにくい。対象となる高齢者にはひとり暮らしの方も多く、開催場所が分からない。地域の老人会とか社会福祉協議会などと連携して、拠点を決める必要がある。参加者も、70 人では高齢者人口のほんの一部でしかない。

⇒地域おこし協力隊については、1 年間の活動を振り返り、認知も高まりつつあり、積極的に活動できていると評価しているが、ご意見をお聞きし、サークルに來られている一部の人たちが中心で、まだ日常の中に踏み込めていない部分もあると感じている。活動状況としては、今年に入ってから活動拠点を南加茂台公民館に移し、サークルや地域の活動に参加し、SNS などで積極的に情報発信している。また、先月、地域情報誌の第 1 号が完成し、公民館などに配架している。引き続き、積極的な情報発信を続けたい。

⇒スマホ教室については、数年前から継続している取り組みであり、当初は高の原イオンや社会福祉協議会で開催していた経緯がある。なかなか参加者数が伸びないことから、出張方式で試行的に取り組んでいる。参加者だけを見ると少ないが、市のスマホ教室が、地域のパソコン教室や家庭で使い始める契機になればと考えている。

⇒補足となるが、いただいた意見全てに共通するのが、市民に情報が十分に伝わっていないことと感じている。恭仁宮跡の取り組みでは、文化財保護課、観光商工課、学研企画課の 3 課が連携して、活用について知恵を出し合っている。先日は、恭仁宮の有効活用を市民と考える市民アイデアワークショップを開催した。小さな入口かもしれないが、こういう活動を継続していきたい。現時点で積極的に情報を発信しているツールに市公式 LINE があるが、今後発信方法や見やすさなど改善を重ねていきたいと考えている。

○会議の進め方について、個別事業について議論すると時間がいくらあっても足りない。事務局が論点を整理して提示することが望ましい。そこから議論が深まればいい。

当尾小学校の利活用の事例では、市の職員が熱意を持って地域と取り組んだ結果、地域に根差した活動として定着している。この戦略の施策の裏に、そういった取り組み姿勢がないと、戦略は無駄になる。国の補助金を活用するためという目的もあることは理解するが、こういった本質的なところは意識していただきたい。

- ◎ご意見のあった内容は以前から継続して問題点として指摘いただいている。
今日の報告はあくまでも市の事業としての実績報告であり、実際市民活動はその事業の枠だけに収まらない。そういう意味では、今日の報告が市民目線で見たときに、一面的であり物足りないというのは、まさに行政の一つの限界でもあると考えられる。
- ◎また、地方創生に限ったことではないが、国の交付金ありきで、活動自体が後付けになってしまっていることも一つの原因であると考えられる。本来、まず地域の課題や活動があり、そのために必要な財源を確保するものであり、活動も活性化する。交付金の仕組みや手続きなど、今後改善が必要であるが、当面はこの枠組みの中で交付金を活用していくことになる。そのため、市民活動や地域の様々な取り組みを深掘りし情報収集することで、交付金との橋渡しができる体制が必要ではないか。
- ◎市の職員が地域に入り、熱意を持って取り組んでいくことは理想ではあるが、職員の数が限られる中で、行政事務処理の人員に加え、地域に出て活動する人員をどう確保するか、現状ではなかなかそこまでの余裕がないという実態もある。そういうことを踏まえた上で、今後の取り組みにつなげていく必要がある。
- 基本目標2の新しい人の流れを作るについて、ケーブルテレビなどのメディアを活用して情報発信してはどうか。
- 基本目標4の安心して暮らせる地域づくりについて、高齢者健康増進・移動支援モデル事業の利用者数が全体の6%にとどまっている。移動の足の確保だけでなく、移動する目的も含め確保していくと利用者が増加するのでは。歩くことも重要で健康増進にもつながる。
- 業績指標評価指標のまちへの愛着度について、70%と高くなっているが、アンケートの回収率が22%と低く、実態を反映していないのではないかと回答者に特典を付与するなど考えてはどうか。
- ⇒メディアの活用については、新聞各社やNHKなどからなる学研記者クラブを通して発信している。
- ⇒高齢者健康増進・移動支援モデル事業については、実績報告書の中でも利用者の拡大は課題とされている。今後、実装に向けては、有償化といったハードルもある。また、歩くことによる健康増進については、京都産業大学との連携事業の中で学生から提案があった内容でもあるが、事業化の検討はこれからとなる。
- ⇒アンケートの回収率については、統計的な有意性は一定確立できており、傾向は掴めていると考えている。特典などのインセンティブについては、他団体の事例を集めてみる。まちへの愛着度は、木津川市の最上位計画である総合計画策定時のアンケート項目となる。中学生もアンケート対象とするなど、

人口減少に歯止めをかけるため、若い世代の意見も集めている。

- 木津川市の人口 8 万人の約 3 分の 1 が 65 歳以上であり、このシニア層の活用が課題だと考えている。その人その人が紡いできた経験を生かせるように市が支援することが大切。シニア層にとっては、周辺の住民とのコミュニケーション自体が大きなインセンティブとなり得る。
- また、豊かな歴史とけいはんな学研都市の先端技術、これらをつなぐ道筋ができれば、日本で有数のことができるのではないか。木津川水系も豊富な地域資源を有しており、非常に将来性があると考えている。

- デジタルで全てが解決できるのかと感じている。戦略に文化財のデジタルミュージアムの記載があるが、地域には実物の歴史遺産があり地域を愛する人もいる。こういう人と接点を持って輪を広げてほしい。
- 地域公共交通ネットワークの確保については、市内を常に循環するルートが欲しい。観光客にもニーズがあると思う。観光トイレの設置とあわせ、市には要望し続けているが実現していない。

⇒生産年齢人口が大きく減少する 2040 年問題を控え、今の行政サービスを維持していくには、デジタルを活用した業務効率化は不可避である。一方で、効率化により生まれた時間をどう地域や市民に還元していくか、といった視点も重要であると考えている。

- 様々な施策に取り組む中で、この総合戦略全体としての目標は、やはり人口減少社会の中でいかに木津川市がその活力をこれまで同様、もしくはそれ以上の活力を持った都市にしていけるかということだと考えている。各施策やその KPI がその目標にどうつながっているのか、その全体像が掴みづらく、全体を俯瞰できるような見せ方はできないか。
- ビジョンにある「幸せ実感」について、数値と実感をどうつなげるかがいつも議論になる。次年度以降考えていかなければならない。例えば、デジタルを活用してその間をつなぐようなことが考えられないか、検討をお願いしたい。

◎非常に難しい宿題をいただいたように思う。この総合戦略が本当に成果を上げているのか、究極の指標は、人口ビジョンが実現できているかだとは思っている。従来の発想では、やはり人口がそのまちの活力を表す指標であることが一般的である。一方で、実際はなかなかその達成が困難な状況であり、個別具体施策の評価になってしまっている面もあるが、人口が減ってもそこに住む人達が地域に魅力を感じ、ビジョンに掲げる幸せを実感できるかは、必ずしも

	<p>人口の多い少ないに比例するわけではない。その辺をどう整理して、最終的にこの総合戦略の評価とするかは、今後いろいろ議論し、検討していく必要がある。</p> <p>◎地方創生交付金をいただいた以上は、それに基づく検証と評価が必要となるが、ただ単に手続き的にそれをやるのではなく、この委員会で出た様々なご意見やご指摘を、差し当たりは、個別具体的な取り組みの工夫や改善につなげられるよう、ぜひ市では検討いただきたい。</p> <p>◎また、デジタルの活用に関しては、国策としてのデジタル化を一つの契機として利用し、そこから木津川市へ人の流れをつくるなど、創意工夫により地域の効果やメリットにつなげていくことが必要ではないか。あくまで、主体は木津川市であり、それには市民の方が何をしようとするのか、何をしたいのかが明確でなければならず、皆様のご尽力をお願いしたいと思う。</p> <p>○デジタル化を進めるにあたり、国の施策に倣うだけでは埋没してしまう。国の大きな構想をどう地域に活かしていくか、行政職員のスキルや熱意により大きな違いが生まれる。その点は十分に意識して取り組んでほしい。</p> <p>7. その他 議事なし</p> <p>8. 閉会</p>
--	---